



岡田かつやプロフィール

1953年生まれ、55歳。東大卒業後、通産省を経て、36歳で衆院議員に初当選。一貫して「政権交代ある政治」の実現を目指し、98年に現在の民主党を結成。政調会長、幹事長、代表などを歴任する。現在党副代表。当選6回。

岡田かつや後援会会報 vol.27

■発行所：岡田かつや後援会事務所

●後援会事務所 〆059(361)6633

〆510-8121 三重県三重郡川越町高松30-1

●国会事務所 〆03(3508)7109

〒100-8381 東京都千代田区本町2-1-1 衆議院第一議員会館443号室

ホームページアドレス www.katsuya.net



政権交代

この国を変える

今年6月、初の著書『政権交代～この国を変える』を出版。政治家として18年間、政権交代ある政治の実現を目指して、揺るぎない信念を貫き通してきた 岡田かつや。いま、政権交代への大きなうねりが広がるなかで、その熱い思いを語ります。

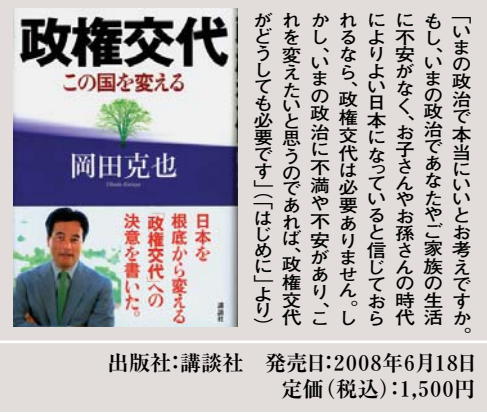


——いよいよ総選挙が目前に迫ってきました。まずはその意気込みと決意をお聞かせください。

岡田 安倍総理、福田総理と2代続けて、わずか1年で政権を投げ出したことから分かるように、自民党政治はもう限界です。本当にいまの閉塞状況を打開しようとするれば、民主党政権をつくり、古いしがらみを断ち切った新しい政治が必要です。

——岡田代議士は6月に初の著書『政権交代～この国を変える』を出版しました。いまなぜ、この本を書くと思ったのですか。

岡田 代表選挙に出るためじゃないとか、いろいろ憶測を呼びましたが(笑)、総選挙を目前にして、政権交代の必要性をしっかりと書きたかったということです。本を読んでいただいた多くの方から、政権交代の必要性についてよく理解できたという感想をいただくことが多いのですが、そういう意味では、私の目指したことがある程度達成されているのかなと思っています。



——本の発売日である6月18日は、ちょうど15年前に宮沢内閣不信任案が可決された日です。あのときはどういった気持ちでしたか。

岡田 人生最大の決断ですね、不信任案に賛成したことは。当然その直後に自民党を離れなければいけないということは分かっています。新しい政党をつくって10年で政権交代をし



1992年4月 民間政治臨調主催の弁論集会で政治改革について語る。

ようと思いましたが、一生野党のままかもしれないという不安感にはありました。与党を出て野党になるということですから、非常に決断力が要りました。ただ私自身は、自民党にはすでに見切りをつけていましたので、迷いはありませんでした。

——その後、解散・総選挙を経て細川連立政権が誕生しましたが、羽田政権と合わせてわずか11カ月の短期間に終わりました。政権交代が長く続かなかったのはなぜでしょうか。

岡田 その前にまず、細川政権つまり政権交代があったからこそ政治改革が実現したということを強調したいと思います。自民党の海部・宮沢内閣にはできなかったわけで、政権交代したことで初めて可能になった。既得権から断ち切れた政党が政権を取った結果です。つまり、大きな改革には政権交代が必要だということを細川政権のもとにおける政治改革の実現が示しているということです。

長く続かなかったのは、7党8会派という不安定な構造です。7つの政党を1つにまとめるということは、考えただけでも大変で、しかもその中には、社会党、公明党、あるいは新しい日本新党、新生党と非常に幅広い人たちがいたわけです。今度政権交代が実現するとすれば、民主党は圧倒的に大きな政党になりますので、そういう心配はありません。そこは非常に大きな違いです。

——自社さ政権の誕生で岡田代議士らは再び野党となりました。新進党の挫折など紆余曲折がありましたが、あの頃はこういった気持ちでしたか。

岡田 政治家人生の中で一番辛い時代でしたね。新進党を結党したものの、党のマネジメントがうまくいかなかった、まとめきれなかったということが最大の理由だと思います。そして、やがては小沢さんと羽田さんの対立が大きくなっていく。私にとっては身を裂かれるような思いでした。そういう中で、何とか新進党でまとまっていこうと努力をしましたが、それも実らず解党してしまいました。その辺りのことは、私の『政権交代』を是非読んでいただきたいと思います。かなり率直に語っています。

——1998年に民主党を結党して今年で10年になります。岡田代議士はこの間、政調会長、幹事長、代表と、党の要職を歴任してきました。どういった政党を目指してきたのでしょうか。

岡田 10年のうち前半の5年は政策中心で、最初は政調会長代理という縁の下力持的な役割を黙々とやっていました。その後政調会長、幹事長となりましたが、1つは民主党の政策をきちんと作り上げること。新しい党でいろんな意見がありましたので。これはかなり成果が上がったと思います。そ



1998年4月 現在の民主党を結成。政調会長代理に就任。

れからもう1つは、いままでの古い政党とは違う新しい政党、つまり党の運営とか、政治資金の透明性とか、そういった党のマネジメント、党の運営についてメスを入れて改革してきたつもりです。

——前回の郵政選挙では、民主党の代表として戦い、大きく議席を減らしました。あの選挙をどのように総括していますか。

岡田 その前に、2004年の参議院選挙では自民党以上に議席を取ったわけで、わずか1年で、しかも05年7月の都議選では議席3倍増だったのが、わずか2カ月後の総選挙では大幅に議席を減らしました。やはりベースとしては民主党に対する支持はあったと思います。現に得票から言うと、小選挙区において2480万票という、いままでにない得票をいただいたわけです。ただ、郵政民営化に賛成か反対かということを唯一の争点に仕立て上げた劇場型政治の中で、従来投票に行かない方も含めて、多くの人が小泉郵政民営化が面白いということで得られた結果だと思います。

05年の総選挙は、本にも書きましたが、小選挙区の怖さと素晴らしさが初めて発揮された選挙だったと思います。ただ、郵政民営化に賛成か反対かという1つだけの争点で選挙をしたことが、日本の民主主義にとって果たして良かったのかということを、有権者の皆さんはその後考えておられるのではないかと思います。



2005年9月 民主党代表として、政権交代実現に向けて、全力を傾けて戦った第44回衆議院選挙。

——政治家となって18年間、一貫して「政権交代ある政治」の実現ということを主張しています。改めてその意味をお聞かせください。

岡田 日本で政治が機能してないのは、政権交代がないためです。どんな政党でも長くやれば腐敗も起こるし、しがらみもできます。これは政治の世界では当たり前です。いまのような閉塞状況の中で政治を変えるには、政権交代をするしかありません。

ただし、私は民主党政権をつくることはゴールではないと本の中で述べています。つまりスタートだと。民主党も長くやれば誤るかもしれないし、おかしくなりしがらみもできるかもしれない。自民党も野に下れば、そこで世代交代や党改革を迫られるでしょう。自民党と民主党という2つの政党がいい意味で競い合い、政権を順番に担う。それが私の目指す「政権交代ある政治」です。

——政権交代が実現し、民主党政権が誕生した場合、いまと何が変わりますか。

岡田 非常に大きな変化が起こるでしょう。まず、我々は過去のしがらみがありませんから、情報公開を思い切って行なう。いままでの政治で国民の目から隠されていたウミを全部出すことができる。それから、官僚との関係でも、我々は官僚に依存した政策づくりを全くしていませんから、国民の目線での政策を実現します。

ただ、私は一方的に官僚を叩くという考え方には立ちません。官僚を使いこなしていく、彼らを本気で国民のために働かせるというのが、政治家、リーダーの仕事だと思います。その上で、年金制度をはじめとする社会保障制度の抜本改革や、本当の意味での地方分権改革などを徹底的に進めていくことになります。

——最後に、岡田代議士が目指す日本の社会の将来像をお聞かせください。

岡田 私が目指すのは「自由で公正な社会」です。自由というのは、個人が自由であるだけではなくて、他の人々の自由も尊重する。そういう意味で、多様な価値観をお互い認め合う社会です。そのことによって個人の自由も確保されると確信しています。グローバル化の中で、中間所得者層の厚みが薄くなるなど、日本が伝統的に大切にしてきた「公正な社会」はいま危機に瀕しています。私は、経済のグローバル化は避けられないし、むしろ活用すべきだという立場ですが、一方で中間所得者層の厚みのある社会、実質的な機会の平等が保障された社会、セーフティネットの充実した社会、世代間の公平が確保され若い人が希望を持てる社会、そういった社会を実現するために、予算、税制その他の政策手段を総動員すべきだと考えています。



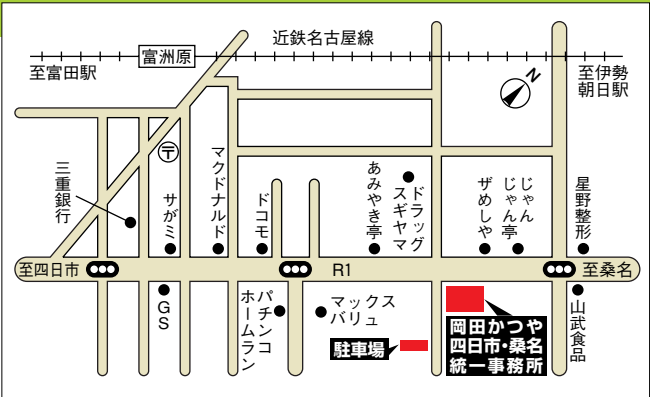
【事務連絡】

岡田かつや後援会事務所のご案内

岡田かつや後援会事務所は、このたび拡張し、四日市・桑名統一事務所として開設いたします。お近くにお越しの節には、是非お立ち寄りください。

※駐車場の台数が少ない為、できる限り乗合せ又は公共交通機関のご利用をお願いします。(近鉄富洲原駅から、徒歩約10分)

三重郡川越町高松30-1 TEL (059) 361-6633



私の近況

引っ越ししました

moving

子ども達が大学に通うようになり、東京へと転居したため、思い切って四日市駅周辺のマンションに移りました。いままでの家は私自身の子どもの時代の、そしてこの20年間の家族の様々な思い出が詰まった場所です。しかし、国会開会中は週末しか帰らないため、不便さは免れません。新居は中心商店街に隣接した、私にとってこれまた特別な思い出のある、かつ便利な場所です。

【ボランティア募集】

岡田かつや後援会では、下記の活動にご参加いただけるボランティアを募集しております。ご参加いただける方は、メールまたはお電話にてご連絡ください。

- 郵便物発送作業
- 電話がけ
- ピラ配り
- ポスター貼り

<連絡先>TEL059-361-6633
<メールアドレス>webmaster@katsuya.net



衆議院議員 岡田かつや後援会会報

NEWS LETTER ニュース・レター



直球、健在。



福田総理が突然の辞任を表明しました。

いま、国民生活は景気の後退や賃金上昇がない中での物価高など大きな先行き不安に直面しています。消えた年金、高齢者医療制度、食の安全問題なども本格的な解決の方向性がないまま途中で投げ出されてしまいました。

総理が簡単に政権を投げ出すことは国民と国家にとって大きなマイナスです。安倍さんや福田さん、そして、それを支える立場にあった与党の人達には、総理大臣の責任の大きさに対する自覚が決定的に不足していたと思います。

いよいよ総選挙の可能性が高まってきました。

私の主張

今こそ
その時

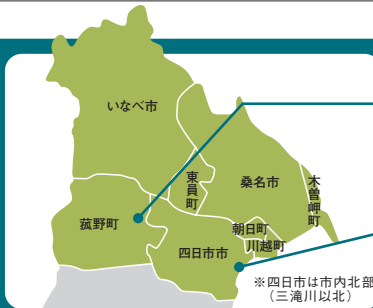
「今度こそ政権交代してほしい」との声もいまでもになく高まっていることを実感しています。総理を代えるだけでは本質的なことは何も変わらない、このことはここ数年ではっきりしたと思います。いまこそ政権交代して日本の政治を大きく変えるときです。

政治は誰かが変えてくれるものではありません。一人ひとりが本気で変えようと思わない限り政治は変わりません。そして、いまこそ「その時」なのです。政治を本気で変えるために、一歩踏み出す勇気を持っていただきたいと思います。

衆議院議員 岡田かつや

三重三区レポート 地元からの報告

三重3区：◇四日市市（三滝川以北）
◇桑名市◇木曽岬町◇いなべ市◇東員町
◇菰野町、朝日町、川越町



- 菰野町 豪雨で土砂崩れの被害にあった菰野町を視察。
- 四日市市 四日市港長期構想（第一次案）への意見。

「大雨と災害対策」 …菰野町豪雨被害地を視察



▲道路陥没を視察

9月2日から3日にかけての集中豪雨で、菰野町は大きな被害を受けました。とにかく現場を見ようと県議会議員7名とともに被災地を視察しました。

水流によって陥没した県道、川の氾濫で一時孤立した国民宿舎「湯の山ロッジ」付近、堤防が決壊した河岸などを見て回りましたが、予想をはるかに超えるひどい状況でした。

今回の災害には、子どもたちがキャンプ場に一時取り残されるという事態もありましたが、怪我人など人災がなかったことは幸いでした。

自然災害の怖さを実感するとともに、迅速な復旧活動のために、町、県、国が連携しながら対応していかなければならないことを痛感しました。



▲伊勢新聞 2008年9月8日

「四日市港の未来図」 …四日市港長期構想へのコメント記者発表



▲四日市港

四日市港管理組合では、平成40年代前半を想定した「四日市港長期構想」の策定をすすめており、先日「第一次案」が公表されました。これに対して大きな疑問を感じたため、仲間の県議らとともに意見書を提出しました。

今回の意見書は、グローバル化する港湾競争の中で、世界の主要な港湾と競い合える国際競争力を強化していくことが求められていること、そのためには、名古屋港と将来的には一体化して発展するべきであるということを提言しています。四日市港が名古屋港と競うのではなく、伊勢湾港との発想が必要です。

具体的な意見書の内容は、私のホームページをご覧ください。



▲2008年9月8日プレス発表時

訪問など活発に活動し、様々な生の声を聞かせていただきました。

これらの活動に加え、ホームページに「小泉政権との5年」を掲載し、また初の著作である『政権交代～この国を変える』を出版しました。書くことによって、いままでの活動を振り返り、また政策を深めることができました。

現場を回り多くの人々の意見を聞かせていただく。そして心静かに自らを振り返り、考え方を整理する。私にとって貴重な時間でした。後から振り返って政治家岡田克也にとって、とても価値のある3年間だったと思えるだけの充実した時間を過ごすことができたと思います。

国会では予算委員会筆頭理事、党では副代表として活動する一方、地元では皆さん一人ひとりと膝詰めの対話を重ねています。また、党の新人・若手を育てることに力を入れるとともに、国内外の現場を精力的に見て回り、多くのことを学ばせていただいています。

岡田かつや 活動報告 '05-'08 ACTIVITY REPORT

現場を見て、
現場から学ぶ。



国会



代表辞任後、予算委員会では13回質問に立ち、小泉、安倍、福田の歴代総理と議論を交わす。



2005年から9大学で講演。政権交代の必要性や日本の将来ビジョンなどについて、学生と意見交換。



民主党の政治改革推進本部長として、国会に「政治資金規正法改正案」を提出。国民の政治に対する信頼を取り戻すため力を注いでいる。

2008年1月に民主党地球温暖化対策本部長に就任。政策の集約、国会への「温暖化対策基本法案」の提出、シンポジウムの開催、現場視察、関係者との会談など幅広く活動。



2008年5月にミャンマーと中国で大規模自然災害が発生した際は、民主党の両災害対策の本部長として街頭で募金活動。



地球温暖化、貧困・アフリカ、核軍縮などのグローバルな課題について、各国の政府・大臣、政治家、国際機関、NGOなどと積極的に意見交換をしている。

地元



四日市を代表する萬古焼など、地場産業を見て回る。



朝7時から駅前に立ち、ピラ（後援会会報）配りに汗を流す。



2007年の参院選では全国を回り、三重の高橋千秋さんをはじめ、選挙期間中だけで延べ38人の候補者を応援。



国政についての様々なテーマを取り上げ、地元の皆さんとともに考えるオープンセミナーを毎月開催。



地元の企業や工場、農林漁業、教育・福祉などの現場を歩き、幅広い年代・様々な職種の皆さんの声を聞いている。2006～2007年は、政治スクールみえの塾長を務め、積極的に活動する。

の国内 現場外



学校、保育所、病院なども積極的に訪問し、子育てや医療の現場を見て回る。



全国各地の工場や研究所をはじめとするモノづくりの現場を視察し、関係者の皆さんと意見を交わす。

パキスタン、ケニア、ミャンマー、カンボジアを訪問し、日本のNGOが実際に活動している現場を視察。

新人 応援



3年間で延べ全国200人以上の新人・若手を応援。人を育てることこそが政権交代につながることを全国を回る。

憂楽帳

KATSUYA'S
NOTE

価値あるチャレンジの3年間

総選挙の責任をとり、民主党代表を辞任して3年。政調会長、幹事長、代表とあまりにも忙しい時期が続いた私にとって、少し肩の力を抜いて充電するいい機会になりました。

とはいえ、休んだというより、新しいいろいろなことにチャレンジした3年間でした。政策面では地球温暖化や貧困など地球規模の問題に視野が広がりました。参議院選挙や若手候補者の応援で全国を回りながら全国の現場を見てきました。地元でも、座談会や企業



岡田かつやプロフィール

1953年生まれ、55歳。東大卒業後、通産省を経て、36歳で衆院議員に初当選。一貫して「政権交代ある政治」の実現を目指し、98年に現在の民主党を結成。政調会長、幹事長、代表などを歴任する。現在党副代表。当選6回。

岡田かつや後援会会報 vol.27

■発行所：岡田かつや後援会事務所

●後援会事務所 〆059(361)6633

●国会事務所 〆03(3508)7109

●ホームページアドレス www.katsuya.net



政権交代

この国を変える

今年6月、初の著書『政権交代～この国を変える』を出版。政治家として18年間、政権交代ある政治の実現を目指して、揺るぎない信念を貫き通してきた 岡田かつや。いま、政権交代への大きなうねりが広がるなかで、その熱い思いを語ります。

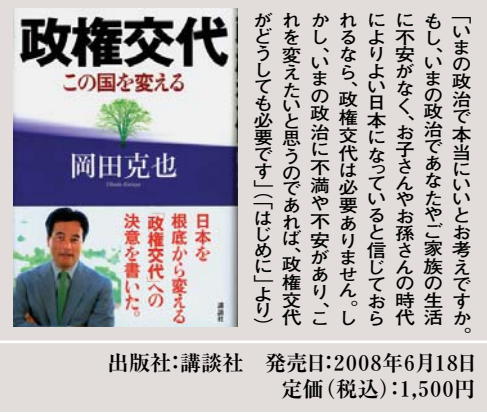


——いよいよ総選挙が目前に迫ってきました。まずはその意気込みと決意をお聞かせください。

岡田 安倍総理、福田総理と2代続けて、わずか1年で政権を投げ出したことから分かるように、自民党政治はもう限界です。本当にいまの閉塞状況を打開しようとするれば、民主党政権をつくり、古いしがらみを断ち切った新しい政治が必要です。

——岡田代議士は6月に初の著書『政権交代～この国を変える』を出版しました。いまなぜ、この本を書くと思ったのですか。

岡田 代表選挙に出るためじゃないとか、いろいろ憶測を呼びましたが(笑)、総選挙を目前にして、政権交代の必要性をしっかりと書きたかったということです。本を読んでいたいた多くの方から、政権交代の必要性についてよく理解できたという感想をいただくことが多いのですが、そういう意味では、私の目指したことがある程度達成されているのかなと思っています。



——本の発売日である6月18日は、ちょうど15年前に宮沢内閣不信任案が可決された日です。あのときはどういった気持ちでしたか。

岡田 人生最大の決断ですね、不信任案に賛成したことは。当然その直後に自民党を離れなければいけないということは分かっています。新しい政党をつくって10年で政権交代をし



1992年4月 民間政治臨調主催の弁論集会で政治改革について語る。

ように思いましたが、一生野党のままかもしれないという不安感にはありました。与党を出て野党になるということですから、非常に決断力が要りました。ただ私自身は、自民党にはすでに見切りをつけていましたので、迷いはありませんでした。

——その後、解散・総選挙を経て細川連立政権が誕生しましたが、羽田政権と合わせてわずか11カ月の短期間に終わりました。政権交代が長く続かなかったのはなぜでしょうか。

岡田 その前にまず、細川政権つまり政権交代があったからこそ政治改革が実現したということを強調したいと思います。自民党の海部・宮沢内閣にはできなかったわけで、政権交代したことで初めて可能になった。既得権から断ち切れた政党が政権を取った結果です。つまり、大きな改革には政権交代が必要だということを細川政権のもとにおける政治改革の実現が示しているということです。

長く続かなかったのは、7党8会派という不安定な構造です。7つの政党を1つにまとめるということは、考えただけでも大変で、しかもその中には、社会党、公明党、あるいは新しい日本新党、新生党と非常に幅広い人たちがいたわけです。今度政権交代が実現するとすれば、民主党は圧倒的に大きな政党になりますので、そういう心配はありません。そこは非常に大きな違いです。

——自社さ政権の誕生で岡田代議士らは再び野党となりました。新進党の挫折など紆余曲折がありましたが、あの頃はこういった気持ちでしたか。

岡田 政治家人生の中で一番辛い時代でしたね。新進党を結党したものの、党のマネジメントがうまくいかなかった、まとめきれなかったということが最大の理由だと思います。そして、やがては小沢さんと羽田さんの対立が大きくなっていく。私にとっては身を裂かれるような思いでした。そういう中で、何とか新進党でまとまっていこうと努力をしましたが、それも実らず解党してしまいました。その辺りのことは、私の『政権交代』を是非読んでいただきたいと思います。かなり率直に語っています。

——1998年に民主党を結党して今年で10年になります。岡田代議士はこの間、政調会長、幹事長、代表と、党の要職を歴任してきました。どういった政党を目指してきたのでしょうか。

岡田 10年のうち前半の5年は政策中心で、最初は政調会長代理という縁の下力持的な役割を黙々とやっていました。その後政調会長、幹事長となりましたが、1つは民主党の政策をきちんと作り上げること。新しい党でいろんな意見がありましたので。これはかなり成果が上がったと思います。そ



1998年4月 現在の民主党を結成。政調会長代理に就任。

れからもう1つは、いままでの古い政党とは違う新しい政党、つまり党の運営とか、政治資金の透明性とか、そういった党のマネジメント、党の運営についてメスを入れて改革してきたつもりです。

——前回の郵政選挙では、民主党の代表として戦い、大きく議席を減らしました。あの選挙をどのように総括していますか。

岡田 その前に、2004年の参議院選挙では自民党以上に議席を取ったわけで、わずか1年で、しかも05年7月の都議選では議席3倍増だったのが、わずか2カ月後の総選挙では大幅に議席を減らしました。やはりベースとしては民主党に対する支持はあったと思います。現に得票から言うと、小選挙区において2480万票という、いままでにない得票をいただいたわけです。ただ、郵政民営化に賛成か反対かということを唯一の争点に仕立て上げた劇場型政治の中で、従来投票に行かない方も含めて、多くの人が小泉郵政民営化が面白いということで得られた結果だと思います。

05年の総選挙は、本にも書きましたが、小選挙区の怖さと素晴らしさが初めて発揮された選挙だったと思います。ただ、郵政民営化に賛成か反対かという1つだけの争点で選挙をしたことが、日本の民主主義にとって果たして良かったのかということを、有権者の皆さんはその後考えておられるのではないかと思います。



2005年9月 民主党代表として、政権交代実現に向けて、全力を傾けて戦った第44回衆議院選挙。

——政治家となって18年間、一貫して「政権交代ある政治」の実現ということを主張しています。改めてその意味をお聞かせください。

岡田 日本で政治が機能してないのは、政権交代がないためです。どんな政党でも長くやれば腐敗も起こるし、しがらみもできます。これは政治の世界では当たり前です。いまのような閉塞状況の中で政治を変えるには、政権交代をするしかありません。

ただし、私は民主党政権をつくることはゴールではないと本の中で述べています。つまりスタートだと。民主党も長くやれば誤るかもしれないし、おかしくなりしがらみもできるかもしれない。自民党も野に下れば、そこで世代交代や党改革を迫られるでしょう。自民党と民主党という2つの政党がいい意味で競い合い、政権を順番に担う。それが私の目指す「政権交代ある政治」です。

——政権交代が実現し、民主党政権が誕生した場合、いまと何が変わりますか。

岡田 非常に大きな変化が起こるでしょう。まず、我々は過去のしがらみがありませんから、情報公開を思い切って行なう。いままでの政治で国民の目から隠されていたウミを全部出すことができる。それから、官僚との関係でも、我々は官僚に依存した政策づくりを全くしていませんから、国民の目線での政策を実現します。

ただ、私は一方的に官僚を叩くという考え方には立ちません。官僚を使いこなしていく、彼らを本気で国民のために働かせるというのが、政治家、リーダーの仕事だと思います。その上で、年金制度をはじめとする社会保障制度の抜本改革や、本当の意味での地方分権改革などを徹底的に進めていくことになります。

——最後に、岡田代議士が目指す日本の社会の将来像をお聞かせください。

岡田 私が目指すのは「自由で公正な社会」です。自由というのは、個人が自由であるだけではなくて、他の人々の自由も尊重する。そういう意味で、多様な価値観をお互い認め合う社会です。そのことによって個人の自由も確保されると確信しています。グローバル化の中で、中間所得者層の厚みが薄くなるなど、日本が伝統的に大切にしてきた「公正な社会」はいま危機に瀕しています。私は、経済のグローバル化は避けられないし、むしろ活用すべきだという立場ですが、一方で中間所得者層の厚みのある社会、実質的な機会の平等が保障された社会、セーフティネットの充実した社会、世代間の公平が確保され若い人が希望を持てる社会、そういった社会を実現するために、予算、税制その他の政策手段を総動員すべきだと考えています。



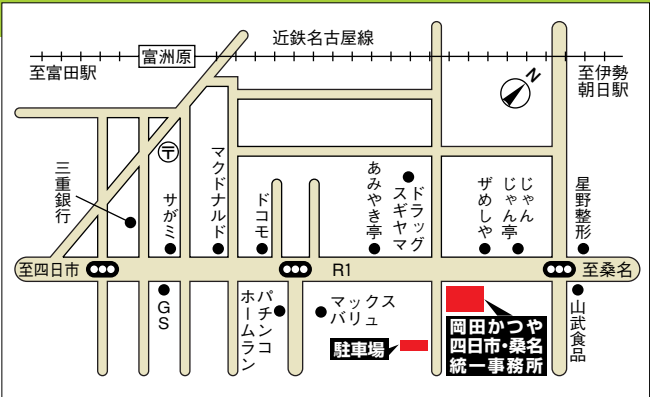
【事務連絡】

岡田かつや後援会事務所のご案内

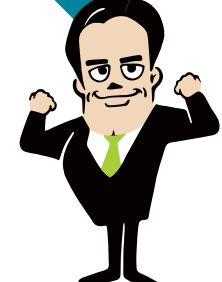
岡田かつや後援会事務所は、このたび拡張し、四日市・桑名統一事務所として開設いたします。お近くにお越しの節には、是非お立ち寄りください。

※駐車場の台数が少ない為、できる限り乗合せ又は公共交通機関のご利用をお願いします。(近鉄富洲原駅から、徒歩約10分)

三重郡川越町高松30-1 TEL (059) 361-6633



私の近況



引っ越ししました

moving

子ども達が大学に通うようになり、東京へと転居したため、思い切って四日市駅周辺のマンションに移りました。いままでの家は私自身の子どもの時代の、そしてこの20年間の家族の様々な思い出が詰まった場所です。しかし、国会開会中は週末しか帰らないため、不便さは免れません。新居は中心商店街に隣接した、私にとってこれまた特別な思い出のある、かつ便利な場所です。

【ボランティア募集】

岡田かつや後援会では、下記の活動にご参加いただけるボランティアを募集しております。ご参加いただける方は、メールまたはお電話にてご連絡ください。

- 郵便物発送作業
- 電話がけ
- ピラ配り
- ポスター貼り

＜連絡先＞TEL059-361-6633
＜メールアドレス＞webmaster@katsuya.net